

令和6年度 調布市立調布中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
○自ら学び深く考えよう ◎礼儀正しく思いやりの心をもとう	○身体を鍛えたくましく生きよう ○勤労を重んじ進んで奉仕しよう
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
「皆の笑顔が輝く、活気と潤いのある学校」←「かかわりを大切に」 (1) 磨き合い、伝え合い、学び合い＝「分かる・できる喜びが味わえる学校」 ・主体的問題(発見)解決能力の育成(学び合い)…主体的・対話的で深い学びを目指す ・特別支援教育の充実(短期人事交流を生かす, ユニバーサルデザインの意識をもつ) (2) 認め合い、心の通い合い、自分との向き合い＝「笑顔のあいさつと思いやり溢れる学校」 ・生徒の主体性や特性を理解した指導, 教師の基準を明確化し生徒の可能性を信じる ・温かな生徒理解に基づき, 課題を早期に発見し共通理解のもとに指導(1年学年担任制の導入) (3) 支え合い、声のかけ合い、話し合い＝「自らの役割を意識しチームで動く学校」 ・(全職員)みんなで(全生徒)みんなを」育てていく…笑顔のチーム(仲間, 家族)調布中! ・保護者, 地域の信頼に応える学年(級)経営(温かさ厳しさのバランス, 認め褒め伸ばす) (4) かかわり合い、出会い、励まし合い＝「様々な人とのかかわりを深める学校」 ・集団の中での役割意識と一人一人の活躍の場所(自分の居場所, 自尊感情, 達成感) ・学校公開と情報発信「見える学校」 (5) 学び合い、高め合い、見せ合い＝「教師自らが学び続け高め合う学校」 ・校内研究やOJTの充実(授業を通じた研究の継続と主体的な研修による学び合い)	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	現状：生徒は意欲的に学習や諸行事に取り組み、落ち着いた学校生活を送っている。 課題：生徒一人一人に応じた「生きる力」を育むこと。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした 育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、国語の学習を通して自らの思いや考えを言葉で適切に表現し、言語情報を正確に理解する力を高める。	・対話的な学習を取り入れることで、自らの考えを言葉で表現したり、他社の考えを理解しようとする機会を増やし思考力を高める。 ・国語の教材を通じて話すこと・書くことでの論理的な表現の型を教えることで、伝える力を高める。
社会	知識を単純に覚えるということではなく、学習の知識を生活や経験に絡めながら理解する力や自分の考えを表現する力を育む。	・一つの事象に対して様々な観点から物事を捉えさせるために、写真資料や新聞記事など身近なものを提示し、話し合い活動などを通して、生徒個人の気付きからグループ学習、クラス学習などに広げていく。 ・振り返りやICTの活用を行うことで、知識の定着や考え方の工夫が行えるようにしていく。
数学	生徒の実態を把握し、数学の学習を通して、基礎的・基本的な内容の定着を目指す。また、話し合い活動を通じてより良い人間関係を形成し、様々な意見や考え方のやり取りを通じて課題解決能力を育成する。	・毎授業の振り返りをさせることで、生徒の実態を把握し、次の授業に生かしていく。 ・協働学習を通して、互いの意見や考えを出し合い、議論する場面を意図的に設定したり、考える力を育成する課題設定をしたりする。
理科	実験や観察を通して実際の現象を確認することで、現象を理解する力を養う。また、話し合いを通して様々な考え方に触れることで、多角的に物事をみる力や創造性を育成する。	・実験を行い、結果から考えられることをレポートにまとめることで理解を深める、理科に興味を持たせる。 ・振り返りシートを用いて、学んだことをまとめ、次の授業に生かしていくことで、さまざまな事象を関連付けて理解できるよう指導していく。
音楽	歌唱や器楽の活動を通して、努力を重ね音楽性の高い演奏ができる力を養う。また、鑑賞の活動を通して、音楽の奥深さに気づき、生涯を通して音楽を愛好する心情を養う。	・授業の中で、ペアやグループでお互いの演奏を聴きあい、評価しあうことで、同じ目標に向けて、音楽性を高めていく。音楽活動を通し、演奏方法の基礎を身につけ、様々な音楽に触れ、音楽活動に親しむことができるよう指導を行う。
美術	美術表現の技能だけでなく、授業内でのグループワークや生徒作品の展示を通して、それぞれの個性や良さを発見することによって、多様な視点からの良さをみつけ、主体的に創造活動に還元していく能力を育む。	・単元課題の最後に講評会を行い、互いの作品にコメントを送り、コメントの意義付けをして振り返りを行う。 ・美術室前廊下や渡り廊下に定期的に作品を展示し、それらを鑑賞するし、自らのイメージを膨らませることに役立てる。 ・タブレットを活用し、美術の授業と身の回りのアートの相関性を考えさせる。

保健体育	運動が得意な生徒も、苦手な生徒も、運動に親しむことを第一に、生徒自らが主体的に活動し、積極性、協調性、思考力・判断力、そして生涯を通して活用できる知識を習得する力を育てる。	・男女共習を実践し、活動内容に応じたグループ学習や練習方法の工夫、視聴覚教材の工夫を行う。 ・学習カードや振り返りシート、ＩＣＴを活用し運動を視覚化、言語化、客観的にとらえられるようにする。 ・定期考査において記述問題等を設定し、活用された知識の定着を図る。
技術・家庭	<u>技術科</u> 実習や課題に対して、主体的に取り組み、課題を解決する力を養いながら、ものづくり等に意欲的に活動する生徒を育てる。 <u>家庭科</u> 自立に必要な衣食住に関心を持ち、生活の中で実践できる力を育む。	<u>技術科</u> ・実践的・体験的な活動を通して、生徒たち同士で学び合いながら、技術と生活や社会、環境の関りについて考えることができる。 ・生活や社会の中から課題を見出し、協働的に課題を解決する力を養う。 <u>家庭科</u> 個人では基礎・基本の知識の充実と学習したことの振り返り、話し合いでは人の意見を聞き、自分の考えを発展させる深い学びへと取り組ませる指導を行う。
外国語 (英語)	生徒が主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。少人数授業を活用し、生徒が他者との対話を通じて、互いに認め合い高め合う姿勢を育てる。	・毎時間の授業において課題設定をし、ペアやグループ学習を通して、協力して課題を解決するしかけをつくる。 ・パフォーマンステストを行い、表現力を伸ばす指導を行う。 ・振り返りを行い、生徒の実態を把握し、次に生かす。 ・宿題や単元ごとの振り返りシートを通して家庭学習の定着を図る。
道徳科	各学年の発達段階に応じて、自分自身に対する自覚を深め、より高い目標を立て、希望と勇気をもって着実にやりぬく強い意志をもとうとする態度を養う。また、温かい人間愛の精神を深めるとともに、謙虚に他に学ぶ広い心をもつ生徒を育成する。	・毎授業において、ペアやグループで議論することにより、他者とのかかわりを大切にしながら学びを深められるようにする。 ・毎時間の振り返りを行い、生徒の変容をみとるようにする。 ・ローテーション道徳を行い、教員自身も授業の質を上げることににより、生徒に身に付けてほしい資質能力を確実に身に付けさせられるようにする。